

平成17年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査（抜粋）

(5-1) 児童生徒の自殺の状況

(単位:人)

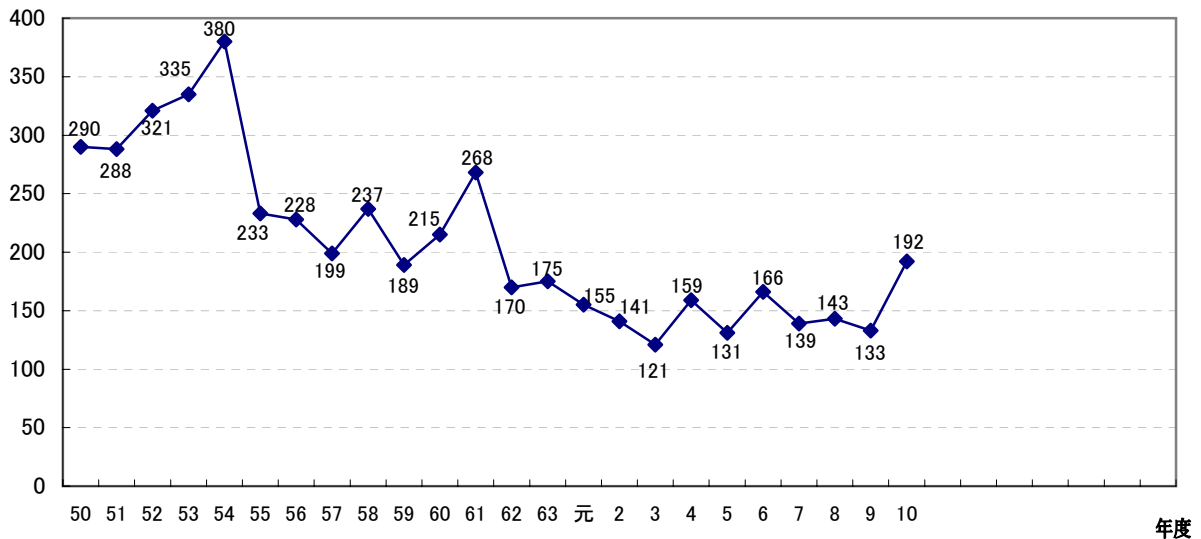
区分	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10
総数	277	290	288	321	335	380	233	228	199	237	189	215	268	170	175	155	141	121	159	131	166	139	143	133	192
小学生	-	-	-	10	9	11	10	8	8	6	12	11	14	5	10	1	5	5	3	4	10	3	9	6	4
中学生	69	79	72	89	91	104	59	74	62	83	66	79	110	54	62	53	35	43	68	40	69	59	41	41	69
高校生	208	211	216	222	235	265	164	146	129	148	111	125	144	111	103	101	101	73	88	87	87	77	93	86	119

区分	11	12	13	14	15	16	17
総数	163	147	134	123	137	126	105
小学生	2	4	4	3	5	4	3
中学生	49	49	37	36	34	31	26
高校生	112	94	93	84	98	91	76

注1) 小学生の自殺については、昭和52年より調査。

注2) 昭和49年から62年までは年間の数、昭和63年以降は年度間の数である。

児童生徒の自殺の状況



(参考)

平成17年中における自殺者の総数(未遂を除く)は32,552人で、前年に比べ0.7%(227人)増加した。
(警察庁調べ)

(5-2) 自殺の原因別状況

(単位:人)

区分	小学校		中学校		高等学校		計		
	16年度	17年度	16年度	17年度	16年度	17年度	16年度	17年度	
家庭事情	家庭不和	0	0	1	2	1	2	2	4
	構成比(%)	0.0	0.0	3.2	7.7	1.1	2.6	1.6	3.8
	父母等のしっ責	1	0	4	1	3	1	8	2
	構成比(%)	25.0	0.0	12.9	3.8	3.3	1.3	6.3	1.9
	貧困	0	0	0	0	0	0	0	0
	構成比(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	0	0	0	1	1	4	1	5
構成比(%)	0.0	0.0	0.0	3.8	1.1	5.3	0.8	4.8	
小計	1	0	5	4	5	7	11	11	
構成比(%)	25.0	0.0	16.1	15.4	5.5	9.2	8.7	10.5	
学校問題	学業不振	0	0	0	0	4	3	4	3
	構成比(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	4.4	3.9	3.2	2.9
	進路問題	0	0	2	0	3	2	5	2
	構成比(%)	0.0	0.0	6.5	0.0	3.3	2.6	4.0	1.9
	教師のしっ責	0	0	0	0	0	0	0	0
	構成比(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	友人との不和	0	0	1	2	0	2	1	4
	構成比(%)	0.0	0.0	3.2	7.7	0.0	2.6	0.8	3.8
	いじめ	0	0	0	0	0	0	0	0
	構成比(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0	0	1	0	1	0	2	0	
構成比(%)	0.0	0.0	3.2	0.0	1.1	0.0	1.6	0.0	
小計	0	0	4	2	8	7	12	9	
構成比(%)	0.0	0.0	12.9	7.7	8.8	9.2	9.5	8.6	
病気等による悲観	0	0	0	0	3	3	3	3	
構成比(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	3.9	2.4	2.9	
厭世	0	0	4	2	8	4	12	6	
構成比(%)	0.0	0.0	12.9	7.7	8.8	5.3	9.5	5.7	
異性問題	0	0	0	0	3	3	3	3	
構成比(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	3.9	2.4	2.9	
精神障害	0	0	0	2	6	9	6	11	
構成比(%)	0.0	0.0	0.0	7.7	6.6	11.8	4.8	10.5	
その他	3	3	18	16	58	43	79	62	
構成比(%)	75.0	100.0	58.1	61.5	63.7	56.6	62.7	59.0	
計	4	3	31	26	91	76	126	105	
構成比(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

注) 主たる理由を1つ選択

調査Ⅷ 平成17年度における公立の小学校、中学校及び高等学校における自殺の状況

※この調査票は統計以外の目的には使用いたしません。

都道府県番号		都道府県(市区町村)名		設置区分	2	学校名	
記入者名		所属課名		電話番号		e-mail	

都道府県番号は、学校基本調査における番号と同じものとする。(市区町村教育委員会においては記入不要)

1. 自殺の状況

(単位:人)

区 分		小 学 校		中 学 校		高 等 学 校	
男	6 0 1 0 1 1						
女	6 0 1 0 2 1						
計							

(注) 本表については、平成17年度間の公立小・中・高等学校における自殺の状況について記入すること。

2. 自殺の理由別状況

(単位:人)

理 由	校 種 性 別	小 学 校			中 学 校			高 等 学 校			「その他」の 具体的内容			
		(1)男	(2)女	(3)計	(4)男	(5)女	(6)計	(7)男	(8)女	(9)計				
家庭事情	家 庭 不 和	6	0	2	0	1	1							家庭事情
	父 母 等 の し っ 責	6	0	2	0	2	1							
	貧 困	6	0	2	0	3	1							
	そ の 他	6	0	2	0	4	1							
学校問題	学 業 不 振	6	0	2	0	5	1							学校問題
	進 路 問 題	6	0	2	0	6	1							
	教 師 の し っ 責	6	0	2	0	7	1							
	友 人 と の 不 和	6	0	2	0	8	1							
	い じ め	6	0	2	0	9	1							
そ の 他	6	0	2	1	0	1								
その他	病 弱 等 に よ る 悲 観	6	0	2	1	1	1							その他
	厭 世	6	0	2	1	2	1							
	異 性 問 題	6	0	2	1	3	1							
	精 神 障 害	6	0	2	1	4	1							
	そ の 他	6	0	2	1	5	1							
計														

(注) 自殺者について、その主たる理由と思われるものを1つ選択すること。理由が不明の場合は「その他」の欄に記入すること。

秘

文部科学省 平成17年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査

調査Ⅲ 平成17年度における公立の小学校、中学校、高等学校及び特殊教育諸学校におけるいじめの状況等

※この調査票は統計以外の目的には使用いたしません。

都道府県 番号	都道府県(市区町 村)名	設置区分	2	学校名	
記入者名		所属課名		電話番号	e-mail

都道府県番号は、学校基本調査における番号と同じものとする(市区町村教育委員会においては記入不要)。

記入に当たって

この調査において「いじめ」とは、「①自分より弱い者に対して一方的に、②身体的・心理的な攻撃を継続的に加え、③相手が深刻な苦痛を感じているもの。なお、起こった場所は学校の内外を問わない。」とする。
 なお、個々の行為がいじめに当たるか否かの判断を表面的・形式的に行うことなく、いじめられた児童生徒の立場に立つて行うこと。

1. いじめの発生学校数、発生件数

区 分							(1) 公立学校総数 校	(2) 発生学校数 校	(3) 発生件数 件
小学校	3	0	1	0	1	1			
中学校	3	0	1	0	2	1			
高等学校	3	0	1	0	3	1			
特殊教育諸学校	3	0	1	0	4	1			
計							0	0	0

(注1) 「公立学校総数」は、「平成17年度学校基本調査」と同一(小・中学校にあっては本校と分校の合計数、高等学校にあっては全日制校、定時制校及び併設校の合計数)になるように記入すること。

(注2) 「発生学校数」には、平成17年度間において、上記の定義に該当するいじめを受けた児童生徒が在籍する学校数を記入する。複数の学校の児童生徒に係るいじめについては、いじめを受けた児童生徒の在籍する学校について1校と扱う。

(注3) 「発生件数」には、平成17年度間において、上記の定義に該当するいじめを受けた児童生徒ごとに1件として数える。この際、同一人物が反復していじめを受けていても1件として扱う(具体的ないじめの行為の回数を記入しないよう注意すること。)(以下同じ)

(例) A君がB君、C君、D君にいじめを受けた場合、1件として数える。さらにA君とB君がC君にいじめを受けた場合、2件として数える。